

福島県知事賞

魅力発掘！ 檜葉町

福島県立ふたば未来学園中学校 1年

カワサキ タカヒロ
川崎 敬広

2011年の3月11日に、東日本大震災と原子力発電所の事故が起き、福島県内では震災後159,168人もの人々が避難を余儀なくされたそうだ。新聞などの報道によると、近年、避難者が帰還し、2020年時点では避難者は41,112人まで減少した。檜葉町では49.1%葛尾村では26.5%など、人口が回復してきている地域もあるが、大熊町や浪江町など人口の回復がまだ進んでいない地域もある。このような地域の人口回復を目指していくことが、今の福島県に必要なことだと思う。そのためには、原発事故による風評被害を無くすことや、他の県には無い福島県の特徴を創り出すことなどが大切だと思う。

被災した地域のことを知るために、漁協組合や道の駅の事などについて、比較的人口回復の進んでいる檜葉町に行き、地域の方の話を聞いた。印象に残っているのは「ならば CANvas」についてだ。ならば CANvasは檜葉町の復興の象徴として町民の想いをもとに設計された施設で、みんなの交流館として建設された。また、心の復興を目指している施設でもある。木造の建築物であり、木をたくさん使用しているのが特徴的だ。この木材の一部には、津波で被災した家屋の木材を再利用しているそうだ。木を基調とすることにより、津波により自然が壊された住民にとって、自然を身近に感じられるように設計されている。この施設は一軒の家をイメージして造られ、地域の人みんなが和むことができる交流の場を目指している。

それから、興味を魅かれたのは、「施設内でのルールは作らない」ということだ。ルールを作るのではなく、ここに集い、交流していく中で、人とのコミュニケーションを図り、何でも相談や注意し合える環境を目指し、地域の人とのつながりを持つことで、交流の場が盛んになることが目的であると知り、こういった取り組みが復興につながっていると感じた。

課題だと考える人口回復と風評被害の払拭のためには、ならば CANvasのように人とのコミュニケーションを大切にすることが有効と考える。そうすることで、福島県外の人達に福島県の特徴や良いところについて発信することができ、避難した人もそれ以外の人も福島県の魅力について知ることができ、人口回復につながり、風評被害の払拭にもつながると思う。

福島県外へ発信する特徴として、檜葉町で生産が盛んである「さつまいも」がその一つだと思う。地域の方によると、さつまいもは加工して販売することが多く、その時に産地を表示しなくてよいことから風評被害の影響を受けずに販売することが出来ると聞いた。これまでの販売実績を基に、福島県の食材は安全であると知ってもらえるよう今後は、福島県産を前面に売り出す方法を取り入れていくことで、風評被害の払拭ができるのではないかと考える。

今の福島県の課題は人口回復と風評被害の払拭、他の県には無い特徴づくりだと思うので、地域に住む人や、観光で来てくれる人々とのコミュニケーションを大切にし、さつまいもなどの農産物や自然環境の良さについてたくさん発信することが最も重要なポイントだと思う。まずは自分の地域のことについて詳しく知り、コミュニケーションを大切にして地域の特徴やいいところを発信し、課題解決につなげていきたい。